



十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第64号

「太素の水プロジェクト」の市民活動



稲生川せせらぎ活動委員会
2011.5.29 西十一番町地区子ども会田植え



Kyosokyodo協力
2011.6.18 寺子屋稲生塾開講式



Kyosokyodo協力
2011.8.20 新渡戸塾ギャラリートーク



一本木沢ビオトープ協議会
2011.8.20 外来魚駆除調査

今こそ『地域力』一人と自然が共に創る郷土を未来へ

100年後の未来にこの「地域」を遺したい

—私たちは「太素の水プロジェクト」を推進しています—

私たちの地域では、150年前に人工河川稲生川を引こうと立ち上がった時から、自然を敬い人々の自律的協力による地域づくりを行ってきました。現在その志を受け継ぐ市民による、一本木沢ビオトープ協議会、稲生川せせらぎ活動委員会、新渡戸記念館ボランティアKyosokyodo（共創郷土）が活動しています。そして、これらの市民活動を、北里大学獣医学部、稲生川土地改良区、ならびに当館との連携により『「太素の水」保全と活用連合協議会』（新渡戸常憲 会長）の「太素の水プロジェクト」として推進しています。この活動は「人工河川稲生川開拓の志を活かした、人と自然が共に創る郷土を未来に」との共通理念のもと行われています。

「太素の水プロジェクト」活動団体

一本木沢ビオトープ協議会（松田石松 会長）

稲生川流域の農業用ため池を活用した一本木沢ビオトープは、多様な水辺の生物の生息環境となっており、自然観察会を開催して「自然」「教育」に関する活動を展開しています。また、定期的外来魚の調査と駆除を行い、健全な生態系の維持に努めています。

稲生川せせらぎ活動委員会（平野隆夫 会長）

稲生川の遊休地を利用して散策路が整備されたせせらぎ水路と「稲生川ふれあい公園」（総延長約7.5km）では、沿線16町内会の住民がアイデアを出し合い「親水」と「交流」を目指して継続的に活動しています。水路沿いには花壇を整備し、水車を設置するなど楽しい憩いの場となっており、美しい景観が整うこの地域は、周辺住民のみならず県内外の人々に朝夕の散歩・健康づくりコースとして愛されています。

Kyosokyodo 共創郷土（新渡戸富恵 会長）

開館以来、自発的自律的に新渡戸記念館を支えてきた地域住民のボランティアを「共に創る郷土」を理念に再発足し、稲生川開削と三本木原開拓の志を活かす地域づくりを目指しています。現在、新渡戸記念館における企画、実践サポート、ネットワーク構築などを実施しています。

「太素の水プロジェクト」活動目標

- (1)稲生川流域の自然の保全と活用の発展、及び稲生川開削と三本木原開拓の志の伝承。
- (2)人と自然の共生や生物多様性の認識を学習と体験により深める。
- (3)市民の自律的参加による地域文化の創造。
- (4)震災を乗り越えてゆく拠点的な活動として他地域にも発信する。

「太素の水」保全と活用連合協議会 組織・概念図



平成23年度「太素の水プロジェクト」今後のスケジュール

稲生川せせらぎ活動委員会 主催「稲生川美化&交流活動」

- 稲生川ふれあい公園・せせらぎ水路清掃活動（およそ月1回）
- 稲生川せせらぎ活動委員会事務局・稲生川土地改良区 TEL・FAX0176-23-5066

一本木沢ビオトープ協議会 主催「親自然体験&研修」

- ピオウォーク10月8日（土）一本木沢ビオトープの見学会
- 一本木沢ビオトープ協議会事務局・十和田市東公民館 TEL・FAX0176-24-9000

Kyosokyodo 協力「新渡戸塾・寺子屋稲生塾」

- 新渡戸塾 10月15日（土）・11月26日（土）絆トーク 11月12日（土）講演会
- 11月2日（水）稲生川穴堰ツアー 12月17日（土）しめ縄づくり
- 稲生塾 11月5日（土）世界と友だち 12月10日（土）書道・茶道体験
- 年中行事 12月31日（土）太素塚元朝参り&キャンドルライトアップ
- 稲生川フォーラム 平成24年3月

Kyosokyodo事務局：十和田市立新渡戸記念館 TEL・FAX0176-23-4430



十和田市の地域づくりを応援します

新渡戸塾講演会

武士道を支える日本の心

講師：国際基督教大学名誉教授 石川光男 先生

日本人の生き方の原点となる武士道の中に、日本文化の特質を探り、21世紀に活かす道を考えます

■日時：平成23年11月12日（土）14:00~15:00

■場所：十和田市立新渡戸記念館（定員50名）※聴講無料

講師プロフィール：1933年札幌市生まれ。1959年北海道大学理学部大学院修士課程修了。専攻は高分子物理学。現在、国際基督教大学名誉教授。理科・文科の両分野にまたがった学際研究に強い関心を持ち、幅広い研究活動を続ける一方、国際会議の経験も豊富。日本人体科学会理事、生命エネルギー研究所顧問、日本ホリスティック医学協会顧問。著書に「自然に学ぶ共創思考」（日本教文社）など。NHK教育テレビ「こころの時代」などTVにも出演。

※会場の都合により申し込みが必要です [10月12日（水）より申し込み開始/新渡戸記念館 TEL・FAX 0176-23-4430]

童門先生のことば ④ 『一期一会』

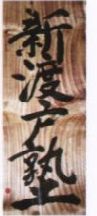
童門冬二先生の新渡戸塾基調講演から、私たちのまちづくりに大切な知恵を数回にわけてキーワードでご紹介します

童門先生は生きる上での心がまえとして禅僧の故・松原泰道師*の教えをお話し下さいました。『泰道先生は「一期一会ということを一生活ることと思ふな。毎日起っていることと思え」と言われた。「朝職場に行っておはようと挨拶する時、その人たちと生まれて初めて会ったのだというフレッシュな出会いの気持ちを持つこと。夕暮れ時にお疲れ様、さようならと帰る時は、もう二度とこの人たちに会えないかもしれないという緊張感を持つこと。そうであれば必ず人間というのは8時間の労働時間に於いてさえ、3通りの人に会っている。1. 学べる人=師 2. 語れる人=友 3. 学ばせる人=部下・後輩などお前より能力が達していない人』そしてこの関係は固定されていない。時々刻々、起っているケースによって、出会った次元においては関係が融通無碍に崩れることがある。時としては新入社員に課長が教えられることもある。』と。考えてみたら新渡戸稲造博士は常にこれをやっていた。特に稲造先生から学ぶのは、部下や後輩に対しても自分以外は師であると思ひ、必ずどんな人からも学びとることができるといふ謙虚さを持っていたということ。私達も稲造博士、そして童門先生の謙虚さから少しでも学び、実り多い毎日を送ることが地域づくりに生きるものと感じます。* 松原泰道一臨済宗の僧侶。臨済宗妙心寺派教学部長。龍源寺住職。講演、著作に幅広く活躍。仏教伝道文化賞受賞。101歳の天寿を全うするまで仏の道を説き続けた。

EVENT

平成23年度 新渡戸塾

【協力：新渡戸記念館ボランティア Kyosokyodo】



★「絆」ギャラリートーク・私たちの未来遺産を考える(全5回) 14:00~15:00 場所：十和田市立新渡戸記念館

十和田湖、奥入瀬を水源に、太平洋岸まで流れる稲生川。その価値は、それをとりまく自然・文化遺産とのつながりに目を向け、見直すことで理解できます。本年度のギャラリートークでは「未来に受け継ぎたい地域の遺産」について市民エキスパートを講師にお話しいただき、毎回およそ30名が学んでいます。

1 7月16日(土) 第1回 地域の宝・蔦温泉 ―今までの100年、これからの100年―
講師：蔦温泉旅館 代表取締役 小笠原正明氏

小笠原社長



小笠原氏は十和田八幡平国立公園の中にあり、およそ100年の伝統をもつ温泉旅館・蔦温泉における自然の保全と活用のあり方について、「人も自然の一部であること」「環境保護一辺倒でなく、ほどほどの思考の大切さ」といった考え方を話されました。自然環境保全について“エコ”も単一視点で自分の都合のみ考えれば“エコ”となってしまうとのお話に、参加者は大きくうなづいていました。伝統の蔦温泉について、ただ守るのではなく、それをどう活かせるか、同じものを新たな視点で見直し、色々な分野の方と協力して取り組んできた実践例をお話し下さいました。前向きな姿勢が感じられるお話でした。



2 8月20日(土) 第2回 地域を支えた稲生川と、地域を支えるこれからの稲生川
講師：水土里ネット稲生川(稲生川土地改良区) 主任 阿部 俊氏

阿部氏は「水土里ネットは基本的に組合員(農家)の賦課金で運営される組織で、行政サービスではないのだが、誤解している方も多いのでは?」と話されました。「宅地開発に伴い、農地転用による混住化が急速に進んでいる。農地と宅地が混在することで、除草音や農薬の苦情、水路へのフェンス設置の要望などが非農家の新住民から寄せられ、その対応にも農家の賦課金を使うこととなる。稲生川は多面的な機能(防火用水、雨水排水、気候緩和、癒しの空間など)で地域全体に大きな恩恵を与えており、“地域用水”として、農家だけでなく地域住民が維持管理に関する仕組みが必要ではないか。その一つである『稲生川せせらぎ活動委員会』は、稲生川流域16町内会住民が主体的に水路の美化、維持管理活動を行うもので、同じく稲生川に関する市民活動の『一本木沢ビオトープ協議会』『kyosokyodo(共創郷土)』とともに『太素の水』保全と活用連合協議会の一員として、今年(11)日本ユネスコ協会連盟の“プロジェクト未来遺産”に応募することとなった。これが稲生川の保全と活用に関心する多くの人が参加するきっかけとなり、小水力発電など新たな活用の可能性が広がることを期待している」とお話しになりました。



阿部主任

3 9月17日(土) 第3回 地域農業を宝に 一直売所の役割と課題―
講師：道の駅とわだ 中浦 麻美氏

中浦氏は「産地直売所は中間の卸業者など介さず農産品が入荷されているというだけで『安くて当然』という人がいるが、産直農家には毎日の包装、運搬、売り場当番、トレーサビリティ管理(生産履歴の提出)など多くの労務が生じ、その費用を度外視して価格設定すれば、労働に見合った収入が得られず続かない。適正価格で販売できるよう、素晴らしい理念を持つ農家さんを『地域の宝』として広く紹介し、付加価値を高めたい。『農業とは『命を守る“食”』であり、消費者の方には農業にもっと関心を持ってほしい。生産者の方には『命を守る“職”』なのだから、自信と誇りをもって産品に価格を付けて欲しい。それが良い地域の循環を生めば、地域の農業を守れるのではないか。稲生川を先人が引いてくれたお蔭で今私たちはここに住んでいる。稲生川を守るためにも農業を廃れさせてはいけない。』と話されました。



中浦氏

★次回の絆ギャラリートークは・・・10月15日(土) 『一本木沢ビオトープの市民活動について』 講師：北里大学獣医学部 杉浦俊弘 教授

新渡戸塾 連携展
新渡戸稲造のまなざしシリーズ企画展

国際知的協力委員会から新渡戸文庫まで
新渡戸稲造―「博覧啓蒙」の願い―

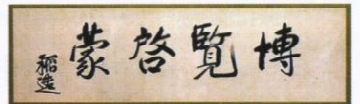
■会期：平成23年10月30日(日)～平成24年1月29日(日)
■会場：十和田市立新渡戸記念館 一階展示室

新渡戸稲造は国際連盟の事務局次長として、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の前身・国際知的協力委員会の設立をはじめ世界の教育、文化の振興に大きな足跡を残しました。祖父、父が開拓したこの地においては「博覧啓蒙」を掲げ、彼の意思によって当館の前身「私設 新渡戸文庫」が設立されました。稲造の世界における活躍から地域の、世界の、「文化力」を見直します。

【お問い合わせ：十和田市立新渡戸記念館 TEL・FAX 0176-23-4430】



国際連盟執務室にて



当館の設立理念となる「博覧啓蒙」の書

平成23年度 新渡戸塾こども講座

新渡戸記念館・市教育委員会 共催
人づくり・地域づくり塾



【協力：新渡戸記念館ボランティア
Kyosokyodo】

1 新渡戸稲造の武士道精神をまなぼう！—開講式— 6月18日(土) 13:00~16:30 [場所：十和田市南公民館]

十和田市長、教育長、当館館長は開講式で、2年目の活動について「ふるさとの魅力の発見」「継続」「仲間をつくること」「成長すること」の大切さを語り、子どもたちを激励しました。塾生およそ30名と保護者は『こども武士道』（講談社発行）の著者・高橋和の助氏を講師に、「武士道」実践のロールプレイングや、震災など身近なテーマを「武士道」精神で考える討論会を行い、意見を交換しました。



こども武士道ワークショップ

2 大行灯をつくろう&火を灯そう！ 7月9日(土) 9:00~12:00/18:00~20:30 [場所：太素塚~産馬通り]

塾生ほか30名が「工作屋台村」吉田紀美男村長を講師に、稲生川上水当時の「大行灯祭り」について学び、ペットボトルキャンドルや大きな行灯に彩色しました。夜は「キャンドルナイト in 十和田2011」を行い、稲生塾出前講座で沢田小学校、法奥小学校、下切田小学校の生徒が作ったものを加え、およそ300個を太素塚から産馬通りで点灯しました。点灯式では震災犠牲者への思いを込めて、Kyosokyodo・三浦弘さん、直子さんご夫妻の電子ピアノとヴァイオリンの演奏で「荒城の月」「ふるさと」を子どもたちが合唱しました。およそ100名が灯火を囲み、心あたたまるひと時を過ごしました。



大行灯祭り

3 太素の森のお話し会 7月30日(土) 9:00~12:00 [場所：太素塚]

塾生ほか40名が参加し、三本木原開拓由来の地名「瀬戸山」「初田」について、創作歴史民話の紙芝居（原作：Kyosokyodo・澤口騏三夫さん/絵：福沢健悦さん）を、こま草の会・小野寺功さん、Kyosokyodo・三浦直子さんに読んでもらい、楽しく学びました。その後グループで、ボランティアの方と「どんきみ」や「手焼きせんべい」など昔のおやつや遊びを楽しみました。子どもたちには「楽しい紙芝居で知らないことが解りました。また来年も聞きたいです」など好評でした。



お話し会

4 とわだ時空調査隊—まちの魅力を発見しよう！— 8月6日(土) 9:00~16:00 7日(日) 9:00~12:00

塾生19名が参加し、8月6日(土)中央公民館で、稲生町六丁目櫻田酒店の櫻田恒郎社長より中心街・稲生町の歴史と、経営にける思いなどを聞いた後、5グループに分かれて市民ボランティアとともに、各店の宝や魅力をインタビューしました。翌7日(日)に子どもたちは調査内容を壁新聞にまとめ、2年目の塾生11名に新塾生8名が加わり内容も更に充実しました。井端寛さま、福田菓子舗さま、三浦米穀店さま、今泉マイクロコンピュータさま、現金屋さまに伺い、まちの歴史や宝を教えてくださいました。



まち探検

【稲生塾生の壁新聞】

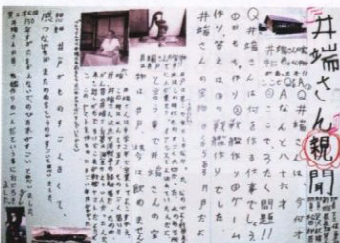
おか新聞

調査隊報告新聞

武士道新聞

十和田市探偵団

井端さん 観聞



寺屋稲生塾の壁新聞について「東奥日報」「デーリー東北」の地元局長さんから講評をいただきました

【子どもたちのまち探検活動全体への講評】

※各壁新聞への講評は「壁新聞展」並びに記念館ホームページでご覧下さい。

URL www.towada.or.jp/nitobe/

東奥日報 地域の先人が残した言葉や生きる知恵は大切な宝物です。現在、地域で活躍されている人たちの話や人生の中にもたくさん宝物が詰まっています。そして、寺屋稲生塾に参加した皆さん、子どもは地域の宝物です。皆さんは、壁新聞づくりなどを通して地域の宝物を過去から現在、未来へつなぐ懸け橋の役割を果たしました。それは小さい懸け橋かもしれませんが、とても大切な懸け橋になりました。(東奥日報・三浦博史十和田支局長)

デーリー東北 震災、少子高齢化、財政危機等々。社会の変化はめまぐるしく、日本人はかつて経験したことのないような事態に直面し右往左往の連続。そんな展開の早い現代こそ、足元を見つめ直す姿勢が求められるのではないのでしょうか。時代を越えて人々の生活に水脈のように息づくもの。子どもたちがそれぞれの視点で探し当てた「地域の宝」が、将来の道を照らす光となることを願ってやみません。(デーリー東北・工藤文一十和田総局長)

★寺屋稲生塾 壁新聞展★ 場所：青森銀行十和田支店ロビー 期間：11月30日(水)まで

壁新聞感想ノートから 寺屋稲生塾へのメッセージ

稲生町の活気の中で過ごした懐かしい時代

東京三高会 理事 瀬戸口玲子さん(昭和22年生まれ 稲生町六丁目出身)

ゆっくり拝見させていただきました。思い起こせば、三本木町が三本木市となり、十和田市へと発展していくさなかに、小学生、中学生、高校生時代を過ごした十和田っ子でした。まちは当たり前のように発展していきました。時が流れ、今、孫のような歳の小学生たちが、「探検隊」として昔がしをする稲生町は、そこに育ち、遊び、家業の手伝いをしながら成長してきた私のふるさと。皆さんの壁新聞の中に、まちに流れた年月を思いながらも、子どもの頃に戻れました。ありがとうございます。親が子どもたちを見守りながら商売に汗を流す活気ある稲生町でした。いい時代、いいふるさとで育ったことに感謝です。まちのいろんな歴史を自分で取材してみることは、とてもいい経験になると思いますので、続けてください。昔を語るおじさん、おばさんも必要。ご苦労ですが、このプロジェクトの推進役の新渡戸記念館にエールを送ります。(2011年8月17日)

まち探検の企画を支えたボランティアの皆さま、暑い中子どもたちの安全確認とサポートに尽力頂きありがとうございました!

mini NEWS

駐日本
ルーマニア大使館
ペトレ・ストヤン
代理大使が
いらっしゃいます

こども講座 **寺子屋稲生塾** スケジュール [主催:十和田市立新渡戸記念館・十和田市教育委員会/協力:Kyosokyodo]

プログラム 5 世界と友だちPART①
—料理・音楽などの文化体験—
■日時:平成23年11月5日(土) 9:00~12:00
■会場:十和田市中央公民館 ※材料費のみいただきます
■内容:ルーマニアの文化体験と交流
お申し込み・お問い合わせは 十和田市立新渡戸記念館(0176-23-4430)、十和田市教育委員会(TEL0176-72-2313)

プログラム 6 書の心は武士道の心
【閉講式】
—書道&茶道体験—
■日時:平成23年12月10日(土) 9:00~12:00
■会場:十和田市民文化センター
■内容:自分で書いた「書」の前でお茶をいただきます

資料の寄贈

- ・平野都太郎さん(十和田市)水彩画『太素塚』(自作)1点
- ・立崎弘志さん(十和田市)ヤマアジサイ(紅)1点
- ・国際交流基金よりペルシャ語版『武士道』(新渡戸稲造著/Mohammad Naghizadeh & Manouchehr Monem訳/ENTESHAR Publication Co.出版)1点(同基金の助成でイランにて2010年出版。監修された東京外国語大学総合国際学研究院八尾師誠教授のご尽力により寄贈頂いた)
- ・佐田昭子さん(東京都)『考古学が語るシルクロード史』(エドヴァルド・ルトヴェラゼ 著/加藤九祚 訳/平凡社 発行)1点

太素塚清掃奉仕

- ・6月5日(月) 7月3日(日) 8月7日(日) 9月4日(日) さわかやクラブ様
 - ・9月19日(月) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様
- ありがとうございました

関連情報

▶鈴木弘之さん、コシノ・ジュンコさんご夫妻が来館
7月15日(金)当館館長代理と親交のある鈴木弘之さん、コシノ・ジュンコさんご夫妻が、「十和田市民大学講座」(主催:市教育委員会)のコシノさんによる開講基調講演のため来十し、講演に先だち当館にお二人で来館されました。見学されたご夫妻は「東北の復興こそが日本の復興であり、新渡戸三代之と新渡戸稲造の功績が今の復興の重要なキーワードになるのでは」とのお話でした。



ご夫妻とともに



コシノさんの色紙

▶稲生川灯ろう流し開催

8月16日(火)太素顕彰会、十和田商工会議所、十和田市観光協会の共催で稲生川灯ろう流しを開催しました。18:30太素塚から灯ろう行列が出発、稲生町を抜けて会場の稲生川第一西裏橋まで歩きました。朝からの雨もあがり、およそ2500人の参加者が見守る中、19:00頃からおよそ200個の灯ろうが流され、稲生川を管理する水土里ネット稲生川と十和田市消防団の協力で、灯ろうは稲生川をゆるやかに流れました。先祖供養にとどまらず、鎮魂と東北復興、世界平和などの思いをこめた灯ろうが稲生川の水面を照しました。



灯ろう行列

▶十和田市秋まつり初日9月9日(金)稲生町中央町内会・わ組が太素塚で御神輿出陣式を行い、今年も十和田祭り唄(地固め唄)を太素塚に奉納して祭りの成功と安全を祈願しました。



祭り唄奉納

活動報告

▶東日本大震災義援金を十和田市長へお届けしました
募金箱を館内に設置し、市内に避難している被災者への義援金を募ったところ、新渡戸塾塾生や来館者から合計35,826円の募金が寄せられ、6月23日(木)塾長の館長代理が市長へお届けしました。

▶十和田市現代美術館常設展作家マイケル・リン氏の実家に残る新渡戸稲造博士直筆の書を記念館で紹介
現代美術館常設展作家『マイケル・リン ミングリグー ふれあいー』展[会期:5月28日(土)~8月28日(日)]の連携で、マイケル氏の台湾の実家に残る稲造の書“Be just and fear not.”と、マイケル氏のコメントをパネルで紹介しました。
※詳細は稲造コーナーのパネルにて



新渡戸塾 スケジュール追加・変更のお知らせ

★「文化財レスキュー事業」報告会を開催

■日時:11月26日(土) 14:00~15:00 ■場所:新渡戸記念館
当館小笠原純也書記とボランティアキュレーター新渡戸富恵氏が参加している文化庁の「文化財レスキュー事業」(東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業)の報告会です。国立民族学博物館・日高貞吾先生のチームに参加し、石巻、陸前高田などで、被災した文化財(民具)の洗浄作業を中心に行いました。



★「稲生川穴堰ツアー」開催日を以下に変更

■日時:11月2日(水)8:30 太素塚集合(9:00太素塚出発12:00太素塚解散)
■定員:20名(対象:一般) ■参加費:実費300円
■申し込み:10月29日(土)締め切り [水土里ネット稲生川・Kyosokyodo 協力]
鞍出山穴堰(トンネル)を入口から出口まで歩きます
※水路には大人の膝ぐらいの深さまで水があります。胴長、特長などの装備でご参加いただき、足元には十分お気を付け下さい
※申し込み・お問い合わせは新渡戸記念館へ(TEL・FAX0176-23-4430)

▶館長講演会

十和田警察署で館長が警察官およそ50名に対し「三本木原開拓と新渡戸三代」と題して、開拓の先人たちの歴史や新渡戸稲造の武士道精神に関する講演を行いました。

▶日本緩和医療学会における館長代理の音楽プロデュースと移動博物館の実施

音楽学博士である館長代理が7月29日(金)~30日(土)第16回日本緩和医療学会学術大会「いのちをささえ いのちをつなぐ 緩和ケア-病院から地域へ」(札幌市/大会長・十和田市立中央病院 蘆野吉和院長)において音楽プロデュースを担当しました。館長代理が同中央病院院内芸術サポートボランティアの会「アルタ・ノヴァ」の会長を務めるご縁から実現し館長代理の友人のピアニスト・上杉春雄氏とヴァイオリニスト・チブリアン マリネスク氏が演奏しました。記念館移動博物館「青森県十和田市から発信する人づくり・地域づくり・日本の心」のパネル展も行い、新渡戸稲造の精神と、札幌、十和田市との関わり、十和田市の魅力、地域づくりのボランティア活動などを紹介しました。病院(医療)も教育も芸術も、地域に開かれたものという共通の思いから今回の企画が実現しました。



パネル展の様子



音楽解説する館長代理と司会の蘆野潤子さん



演奏するマリネスク氏

▶平成23年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

6月28日(火)10:30から平成23年度第1回太素顕彰会定期総会を十和田商工会議所5F会議室で開催し、平成22年度事業報告及び収支決算報告について審議が行われ、原案通り可決されました。

編集後記 いつもならばつらいことや悲しいことは、時間がいつの間にか解決してくれた。しかしながら震災も含め、我が国全体の現状を目の当たりにして、今回だけはそうもいかない。私の尊敬する19世紀最大の音楽家フランク・リストは、王侯貴族の為の音楽を民衆に開放する先駆けとなった。自身による超絶的なピアノ演奏は全ヨーロッパの人々を釘付けにし、リストの意見は治世をも動かした。そして当時低かった音楽家の地位までも世に問いかける事で、芸術家を孤高の存在に押し上げたのである。リストは演奏や作曲などで莫大な財産を築いたが、その大半を世の人々の為に費やしたのが彼の誰も真似の出来ないところ。「天才は社会に貢献すべきである」を生徒実践したリストに少しでもあやかりたいものである。治世に係る者、つまり現代では、主権者であるべき我々国民全てが今こそ「世の為人の為」という偽りなき真の「奉仕と犠牲の精神」を持つ時だ。(館長代理 新渡戸常憲)

■ご利用案内
・開館時間:午前9:00~午後4:00
・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29~1/3)
・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています

世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2011年10月1日
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax: 0176-23-4430
Email: nitobemm@hi-net.ne.jp
印刷 株式会社 岩間印刷